

## ○各大学における特色ある取組、公立化時の目標達成状況

### 教育の質の向上及び地域貢献のための取組状況

#### 地域協創センターの設置

平成 6 年に公設民営方式により設立した経緯から、教育研究における地域との結びつきを重視するとともに生涯学習・イベントなど市民が大学に能動的に足を運ぶ機会をつくってきた。

平成 26 年 4 月の公立大学法人化に伴い、大学改革として「経営力の強化」「教育研究力の強化」「地域貢献力の強化」を掲げ、将来にわたり地域社会に貢献できる大学への新たな一步を踏み出した。特にこれらの 3 要素を有機的につなげ、より一層地域との連携を深めるために、地域協創活動の専門機関である「地域協創センター」を開設した。地域協創センターは本学の教育研究活動と地域貢献との結びつきを最適化するプラットフォームとなり、地域のあらゆるデザインニーズを一元的に受け止め、デザインの活用を更に広めていくことが可能となっている。コーディネーター役として本学専任教員である地域協創センター長と事務局を配置し、事業・活動等の実施にあたっては本学全体をあげて取り組んでいる。

#### 地域・社会連携系科目の推進

学生が地域活動に関心を持ち積極的に参加できるよう、地域協創センターと連携しながら、地域社会を実践的な学びの場とする演習・実習科目を開講した。企業や自治体・コミュニティ等と協働した課題解決への取り組みは、「社会人基礎力」「構想力」「創造力」を育むアクティブラーニングとして、カリキュラムへの積極的な導入を行っている。

### 地域貢献に関する目標の達成状況

公立大学法人長岡造形大学中期目標（平成 26 年度～平成 31 年度）にて以下のとおり、目標を設定している。

#### (1) 地域社会との連携

新たに設置する「地域協創センター」を拠点に、産学官の連携にとどまらない地域社会全体の協働に取り組み、地域課題の解決や新たな地域価値の創造を目指す。また、大学が有する知的・物的資源を社会に還元し、市民生活の文化向上や生涯学習の推進に寄与する。

・公立大学法人化前より地域・企業からの受託研究の取り組み、官学が連携したイベントの実施、敷居は低く開かれた大学として、大学施設を広く市民に開放するなど継続的に取り組んできた。

公立大学法人化に合わせて設置した地域協創センターは、大学と学外の接点としてワンストップ窓口の機能を有し、当該センターを介し、市民、産業界、高等教育機関、行政機関、金融機関等と連携した様々な取り組みが生まれている。その中でも、学部の授業科目「地域協創演習」、大学院の授業科目「地域特別プロジェクト」は、企業などの実プロジェクトに対して教員と学生が実践的に取り組み、新たな価値創造への挑戦を通し地域貢献に資する授業となっている。

・市民を対象としたオープンキャンパスの開催、大学の専門施設を使用した専門的なものづくりの場「市民工房」の運営、市内中心市街地をフィールドとするアートイベントの実施など、大学の取り組みを市民が目にし、ともに参加する機会が増えている。

・産官学の連携は当事者間での利益にとどまらず、地域社会との協働を生んでいる。大学の知的資源の社会還元は幅広い世代を対象に、ものづくり・デザイン教室や美術・デザイン勉強会、講座などを実施し、地域の方の生涯学習の推進に寄与している。

・平成 28 年 4 月、にいがた産業創造機構、長岡産業活性化協会、北越銀行との協力によりデザインマネジメント研究会を設立、地元企業と情報交換し、ニーズの把握・シーズの発見に努めている。デザインマネジメント研究会ではデザインマネジメント講座を開催し経営資源としてのデザインの価値を伝える取組を行った。

・長岡市の「人づくり・産業振興を支える拠点」整備に伴い、平成 30 年度に 3 大学 1 高専、長岡商工会議所、長岡市による NaDeC 構想推進コンソーシアムが設立された。その後 1 大学が加わり、長岡市中心市街地に整備された NaDeC BASE（NaDeC 構想の先行実施の場）を活用した研究開発や産学官連携事業を協力して実施している。

## **(2) 教育機関との連携**

**保育園、幼稚園から高等学校までの教育機関との連携により、子どもたちのデザインマインドを育てる。**

**また、高等教育機関との連携により、互いの特徴ある教育研究機能を生かし、地域の課題解決や人材育成に取り組む。**

・公設民営方式による大学設立の経緯もあり、法人設置者の長岡市との連携は公立大学法人化前後で変わらず続いている。長岡市教育委員会との協力により小学生を対象に夏季休業中に実施するものづくり教室の実施や高校生を対象にした絵画教室の開催などに取り組んでいる。その中でも本学主催の「こどもものづくり大学校」では、小学 3～6 年生を対象に年間全 10 回のプログラムを通して造形に関する情操教育の機会を提供し、開講以来定員を大きく上回る申し込みがある。

・長岡市内に設置している 4 大学 1 高専（本学含む）の高等教育機関では、単位互換や非常勤講師としての教員交流は公立大学法人化前後において継続的に行っている。

・地域の方に大学の研究・教育内容を知ってもらうこと、デザイン・ものづくりの楽しさを知ってもらうことを目的として開催している市民オープンキャンパス（令和元年度 9 月 21 日開催）では、幼児から大人までを対象としたものづくり体験教室を開催した。

・中学生・高校生を対象とした「美術・デザイン勉強会」を開催している。令和元年度は図学、グラフィックデザイン、デジタルイラスト講座を実施した。

・長岡市内の中学校美術部の生徒作品を一堂に展示する「長岡市中学校美術部作品展」を実施し、本学教員が講評を行った。

・長岡市教育委員会との連携による「熱中・感動・夢づくり事業 夢づくり工房 in 長岡造形大学」を実施し、小学生が受講した。

・市内高等教育機関（4 大学 1 高専）と長岡市とで連携し、「まちなかキャンパス」に講師を派遣し、人材育成に取り組んだ。

## **(3) 地元高等教育機関の入学者枠創設**

・地元高校生の高等教育機関への進学機会を確保することを目的とし、公立大学法人化後地元長岡市内在住者は入学料の半額 141,000 円免除、また、平成 27 年度より入学定員 230 名中 10 名を長岡市内高校在籍者枠とした。生まれ育ったまちの大学で知識や技術を身に付け地元就職する、それら人材が新たな地域価値等に貢献するよう入試制度の面でも取り組んでいる。

・公立大学法人化後に入学者の県内外比率が逆転し、多くの県外出身者を受け入れている。

出身地が異なることで学生の多様性が生まれ、先記の地域協創演習では実プロジェクトに取り組む地元企業や行政などに対して幅広いアプローチができ、新たな価値の創造につながる動きとなりつつある。また、長岡の地で学んだ学生が出身地に戻ることで、本学で修得した能力を発揮し地元の貢献に資することを期待している。さらにそれが次代の多様な入学者の受入れにつながるものと考えている。